

みらいの県土研究会（第4回）

議 事 要 旨

日 時 : 令和6年3月19日(火) 14:00~15:45
場 所 : 静岡県庁 西館4階 第1会議室A・B
出席者 : 別紙出席者名簿のとおり

議事次第に基づき技術調査課から説明を行った。

※「建設発生土の再生と有効活用に向けた取組」については、静岡理工科大学中澤教授から説明を行った。また「意見交換」では、静岡市及び三島市から現状について説明があった。なお、出席者からの主な発言及び回答は以下のとおり。

【ストックヤード整備計画の策定について】

- ・ 民間がストックヤードを運営した場合、搬入と搬出の調整をしなければ、すぐに容量が満杯になってしまうが、官側で調整をしていただけるのか。
(技術調査課) 県が整備するストックヤードについては、事前に調整した県の土だけを当面受け入れていく予定である。
- ・ 官民連携とは、民側にどのようなことを期待しているか。
(技術調査課) スtockヤードの運営手法や土質改良等の技術提案を民間にお願いしたいと考えている。

【建設発生土処理施設一覧表について】

- ・ 一覧表をもとに電話したが、条件が合わず受け入れてもらえなかった。受入れ条件を詳細に記載していただけないか。
(技術調査課) 見積依頼の際は条件を詳細に記載してもらうように依頼する。

【SSMIによる発生土の利用調整】

- ・ 官と民のマッチングについては、特定の会社に利益が生じることとなるため、公募のような扱いにするべきではないか。
(技術調査課) 現在、官と民のマッチングは考慮していないが、今後は公募のような形式をシステム上でできないか検討していく。
- ・ リサイクル原則化ルール内容に、ストックヤードを使用する際の、搬入搬出の事前調整を記載した方が良いのではないか。
(技術調査課) リサイクル原則化ルールの見直しについて検討しているところである。

【建設発生土の再生と有効活用に向けた取組】

- ・ 自社でも熔融スラグを使用した土質改良について試験施工を行ってきたが、県外からの熔融スラグの調達がひとつの課題となっている。今後も情報提供をお願いしたい。
(中澤教授) 情報提供していきたい。

【これまでの意見を踏まえた今後の展開】

- ・ モデル事業で整備したストックヤードは来年度も継続するか。
(技術調査課) 中部は民間事業者の意向を確認しており、西部は継続について検討しているところ。東部は運営を継続していく意向である。
- ・ 搬出土量が 500m³ 未満の場合、受注者に再生資源利用促進計画書を作成させるか？
(技術調査課) 県の工事においては、土量に関わらず作成することとなっている。

【今後の展開に対する意見交換について】

(静岡市) 公募についての問合せが 15 件あった。その内、実現性の高い箇所が 3 件あり、処分場の内容としては、農地の嵩上げ、山間地での谷地形の埋立てである。用地交渉もあり、現時点で受け入れ開始時期は明言できないが、できるだけ早く開始できるよう、手続きの支援をしていきたい。市長も建設発生土の処理について力を入れており、来年度から技術政策課に建設発生土対策係ができる予定である。

(三島市) 民間のストックヤードの整備について、社会資本整備を担当する都市基盤部としては、積極的に支援していきたい。ただし、ストックヤードは土ほこりをゼロにできないため、適地として住宅地から離れることとなる。また、全天候でも受入が可能となるよう、屋根の設置が欠かせない。常設の屋根を設置した場合、建築確認が必要となるが、市街化調整区域での建築物の立地は極めて困難である。調整区域内の緩和基準を設定するなどの対応が必要になると考えている。